



卒業式の練習が佳境に入りました。みんなでなりたい自分が表現できるよう、頑張っています。

他の場面に学習を生かす

給食記念週間の折、給食委員会の子どもたちが素敵な「食育動画」を作成、公開してくれました。給食ができた歴史的背景の調査や給食の先生方へのインタビュー、クイズなど盛りだくさんで楽しい動画でした。とっても素敵だなあと、とても感動しました。

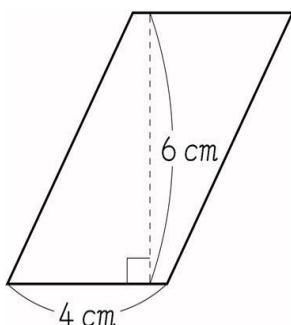
この動画の作成には、調査やインタビュー、もちろん動画作成そのものなど様々な技術が必要です。ただ、委員会活動の時には、その技術そのものの学習はしていません。

なぜ、作れるのか。当然、他の学習時間に学習したからですね。

このように、学習を生かすことを学習科学では「転移」と呼びます。簡単そうに聞こえますが、この「転移」、思ったより難しいことなのです。こんなデータがあります。

96%

18.2%



(3) ひろしさんの家の近くに東公園があります。
東公園の面積と中央公園の面積では、どちらのほうが広いですか。
答えを書きましょう。また、そのわけを、言葉や式などを使って書きましょう。



これは、全国学力学習状況調査の平成19年度、同時に出された2つの問題です。見えづらと思うのですが、大まかにどちらも「平行四辺形の面積」を求める問題。左は直接的な問いですが、右は地図の中に平行四辺形が埋め込まれている、いわゆる応用問題です。そして上が正答率。左図のように、授業で教わったように尋ねられた問題の正答率が96%と非常に高い数値を示したのに対し、図形が地図上に埋め込まれた応用問題の正答率は18%ほどまで落ち込んでいます。

驚愕の事実です。

私たち教師は、これまで何かしらを教えればそれを生かし、知識を「転移」させ、ちょっと似ている様々な問題を解決すると思っていました。しかし、現実はそうではなかった。

なぜか。どうやら、何かを学ぶときには、その「文脈」もまた学ばらしい。

例えば、「廊下歩行」と「道路の飛び出し」について。学校で口を酸っぱくするぐらい「廊下を歩きなさい!」と指導します。もちろん、「もし走っていたら危ないし、角は特に見えないから危ない。重大な事故につながる」ということまで含めて指導(子どもの側からは学習)します。が、いったんお家に帰っての地域の道路の過ごし方については、廊下歩行という学習が生かされないことが残念ながら多い。これは、先生がいないとか廊下ほど通行量が多くない、通行しているもの(人 or 車や自転車)などの文脈の違いからなのかもしれません。2つの意味を考えれば、学習を転移させ、どちらも安全に過ごせるはずなのですが…。

それくらい学習を生かすことは難しいことなのです。給食委員会の子どもたちのように、別の授業で学んだ知識や技能を自分たちの表現に生かすこの学習力はとってもすごいことだと、改めて思います。だから、お家で学習を生かす姿を見られた時(例えば左右確認して横断歩道を渡る、など)には、ぜひ、思いっきりお子さんを褒めてやってください。